

定例活動／8月27日(土)

「森の探検 ～地質を訪ねて～」

阿部 龍雄

8月の定例活動は、午前10時から12時まで、集いの広場(参加者11名)で「名古屋の地形と地質」の話を村松憲一先生(瑞陵高校教諭)により聞きました。

名古屋の地質は、猪高部層(砂礫層と泥質層の互層300万年前)、八事層(砂礫層、シルト層及び砂層80万年前)、熱田層(砂礫層と御岳噴火の軽石15万年前)及び沖積層から成り立っていること、また名古屋の地形は太平洋側から押され養老山地(中古生層)の下に沈みこんでいて、東が高くなり西が低くなっているのだそうです。名古屋周辺は今から1,600万年前は古瀬戸内海

とよばれる浅い海で、日本列島は南北方向を向いていたそうです。さらに今から650~700万年前には東海湖(低地帯)が広がり、この時代に堆積した粘土分が瀬戸陶土層だそうです。名古屋は最近まであゆち瀉と呼ばれる湿地でしたが、海面の後退と埋め立てで現在の地形となったそうです。

相生山は八事層が表土で、一面に散乱する小石はチャートで80万年前に北方から河川で運ばれてきたものだそうです。地中深くは花崗岩(猿投山の山頂付近に見られる)でその上に猪高部層、八事層が堆積した地層となっていて、相生山の一部には猪高部層が見る



▲村松先生(中央奥)の話聞く参加者たち

事が出来るそうです。

今回の話では、遠い昔の話から足元の小石の話まで大変楽しく聞かせていただきました。是非次回は、実際に相生山の地層を見ながら話を聞きたいと思っています。私自身これから少しは足元にも気をつけて歩いてみようと思っています。

市民協働による気温測定調査に私たちも参加しました!

小池 敦夫

一昔前までは、森や海、川、田畑などがクールアイランドとなって冷風を運び、街は冷やされていました。ところが今や、熱帯夜の連続で街は暑熱化しています。そこで、もう一度、森や川を見直し、活かし、街づくりの中でみどりの役割を再認識してみようということで、名古屋気温測定調査実行委員会の主催により「名古屋の夏は暑いのか?みんなで気温を測るまい!」と題して、気温測定会が実施されました。

8月7日(日)、市内を2km毎にメッシュをかけ174地点で、午前5時から午後8時までの毎正時に気温と風向、風力の3つを測定しました。延べ250

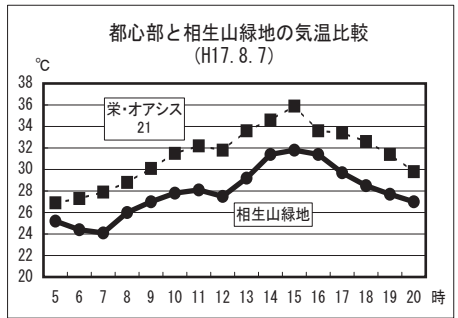
人を超える多くの方が同時に測定する"多点同時観測"は今まで他に例が無いそうです。

我が森くらぶからは、大館(測定地点:オアシスの森)、小池(同:梅が丘公園)、真弓(同:東山の森)、森(同:相生山団地)、中島(同:荒池緑地)の5人が参加しました。

結果は速報値でグラフのように、午後3時の時点で最大温度差が4.4℃ありました。これは地表温度でも体感温度でもなく空気の温度差であり、気温を4.4℃下げようとしたらどれだけクーラーの電力が要するのか。みどりの効果はすばらしいと実感しました。

これらの結果は報告書としてまとめられるとともに、10月の名古屋主催のシンポジウムでの発表や、実行委員会による報告会も予定されてます。

みなさん結果分析を楽しみに。また、やるまいか!



相生山緑地オアシスの森

では、測定開始の午前5時、すでにカブトヤクワガタ狙いの親子づれが懐中電灯頼りに歩き回っています。この日の日の出は5時6分、測定地として選んだ稲田口近くの谷あい地はまだ暗く、懐中電灯で照らして視る10分の1度目盛りの温度計は指示値が見にくく、時間をかけて測定していると自分の体温の影響を受けてか温度が少しずつ上が

ってしまい苦労しました。

9時頃には、今年はずっとツクツク



▲気温測定用のフード

ボウシの鳴き声を聞きました。また、通りすがりの人達からは、「どのくらい森の中は涼しいんですか?」とか、「興味があるので、報告会に行きたい。」など関心の高さを実感しました。

さて、気温は朝が24度台で、徐々に上昇していましたが、昼ごろに曇り空となり、結局最高気温は午後3時の31.8度でした。

(大館 学)